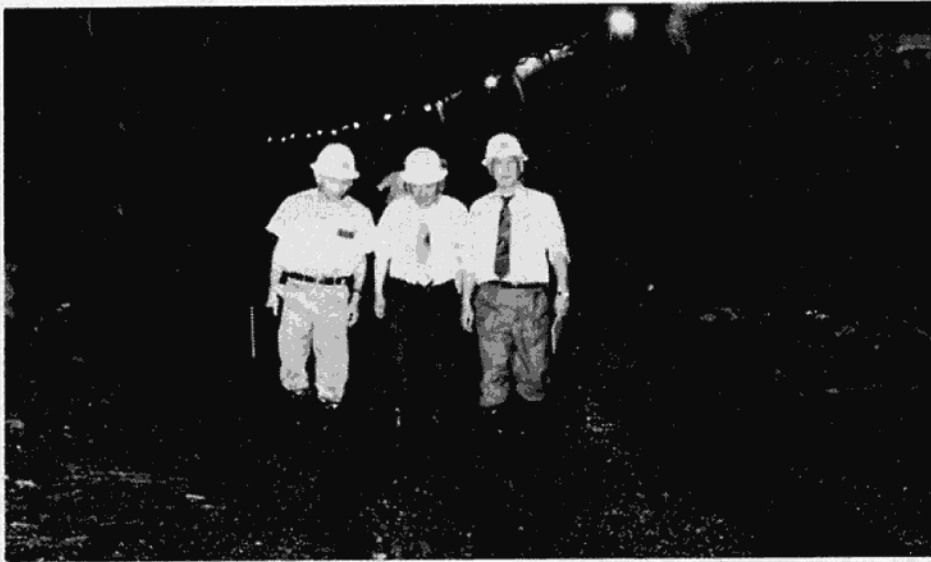


# 鳴虫山トンネルなど工事すすむ

## 第一神主山トンネルは難工事

日本道路公団により工事が進められている「日光宇都宮道路」の最終区間、七里清滝桜ヶ丘間の作業状況を、議会の六月十八日、市議会建設常任委員会が、市長と共に全区間現場視察しました。

工事中の神主第一トンネル



この区間は、昭和五十六年度完成予定で、工費一六五億円をつぎ込み、現在二車線の突貫工事が進められていますが、視察の時点で

鳴虫トンネル清滝側入口



の進行度は、全体の約四十五%。六ヶ区間には、三つの大きいトンネルがあり、鳴虫山トンネル（九六七メートル）は、上半部が貫通。岩盤のもろさから難工事の第一神主山トンネル（七九四メートル）は、七里側から四四〇メートルの地点まで、掘り進んでいました。

## 宮内橋が完成

宮小来川の間を流れる黒川に昨年十二月から工事を進めていた連絡農道用橋りょう「宮内橋」が完成し、六月十六日、宮内農道・



（上）テープカット （下）渡りぞめ

小沢鍛冶屋農道・宮内橋の竣工式を行いました。この農道と橋りょうは、農村生活環境の整備を目的に、昭和五十二年に着工され、初年度は宮内農道を二一メートル舗装し、五十三年度は小沢鍛冶屋農道四五六メートルの舗装と宮内橋を架設しました。宮内橋は幅員四メートル、橋長二三メートルの鋼橋です。二年間の工事に三千二百二十万四千円を費やしました。

に「祈釀祭」が行われ、県内の酒造家が集って、この水を元水として持ち帰り、心を込めて酒を造り、五月には、出来上がった清酒を持ってきて奉納する「報釀祭」が行われる。昭和四十六年十月、二荒山神社境内西神苑に、酒の泉と薬師の霊水を引いた「二荒霊泉」が作られた。それからはそちらでまつりをやることもある。酒の泉の前の天狗沢を渡る時、石柵に囲まれた、高さ一メートルほどの丸い自然石の巨石が安置されている。古くから安産子種石と呼ばれ、子授けの信仰がある。石には、しめ縄が巻かれ、小石がたくさん置かれている。子供が欲しいのに、どうしても授からない人びとが、これまでに、どれほどたくさん、この石に願をかけてきたことだろう。昭和四十一年九月に、天狗沢の洪水があった。子種石前の鳥居や石柵などは、洪水後に建てられたものである。開山堂近くの「陰陽石」や「香車堂」に始る滝尾参道沿いの庶民信仰の史跡群は、不思議なことに、人の一生にそつたような順序で並んでいるように見えるが、ここの子種石がどうやら一番奥。また人生ふり出しへ戻る、ということなのかも知れない。